

子どもの外出行動の活発化に寄与する 街路空間の防犯安心感設計手法



都市研究部 都市施設研究室 主任研究官 高柳 百合子
都市計画研究室 室長 明石 達生

(キーワード) 街路空間、子ども、防犯環境設計、防犯安心感、沿道用途

1. 街路空間に対する利用者の評価に着目

都市研究部では、街路を公共用地のみだけでなく沿道民有地も含めた立体的な空間として捉え、多様な利用者の目線から街路空間の有効活用を促進する手法を検討している。ここではその研究の一環として、子ども（小学3年生）の街路空間利用について、保護者の防犯安心感評価に着目して分析した研究を紹介する。

調査の結果、子どもの外出行動の活発さは、保護者の安心感（防犯と交通安全）に左右されており、保護者の9割が、子どもの行き先やルートに制限を課していた。従って子どもが良く利用する公園等を結ぶルートを、保護者が安心できる空間にすることが重要である。では、安心感に寄与する街路空間の構成要素とは何だろうか？

2. 防犯安心感と街路空間構成要素

地方中核都市の区画整理されたありふれた住宅地を校区とする二つの小学校の3年生全クラスの保護者（有効回答217名）を対象に、子どもの外出行動と保護者の意識について、防犯と交通安全の両面からアンケートを行った。

図-1は、このうち、防犯面から不安を感じる街路と安心感のある街路の区間を、各々地図に記入してもらった回答を区間



図-1 安心な区間（青）と不安な区間（赤）

毎に集計し、安心と回答した人数が上位2位の区間を青色で、不安と回答した人数が上位3位の区間を赤色で示したものである。

また、街路の構造や、沿道の状態といった空間構成要素と街路の通行量を現地調査で把握し、これらの「物理量」に対して、防犯上の安心・不安に関する「心理量」との関係を重回帰分析により解析した。その結果、保護者の防犯安心感に対する各空間要素の影響度（t 値）は、図-2のようになった。（1%有意の要素のみ、 $R^2=0.59$ ）

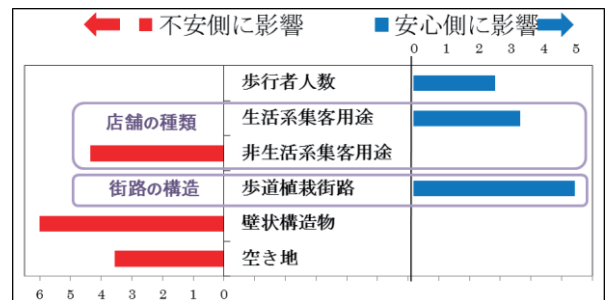


図-2 各要因が安心・不安に与える影響の大きさ

この分析により、保護者が防犯上安心して子どもを外出させられる要素を備えた街路空間とは、沿道に日常生活用品店等が配置され、自動車の通過交通から構造的に分離された、植栽のある快適な歩道のある街路空間であることを明らかにした。

従来の防犯環境設計が指摘する沿道の壁・塀や空き地等による不安感の除去だけでなく、安心感の増大を志向することが重要である。

【参考文献】

高柳・明石「子どもの外出行動の活発化に向けた保護者の防犯安心感に寄与する街路の空間構成要素」都市計画論文集, V01. 46. No. 3 (2011. 10)